

## 第3章 文化財の概要

### 1. 文化財の現状

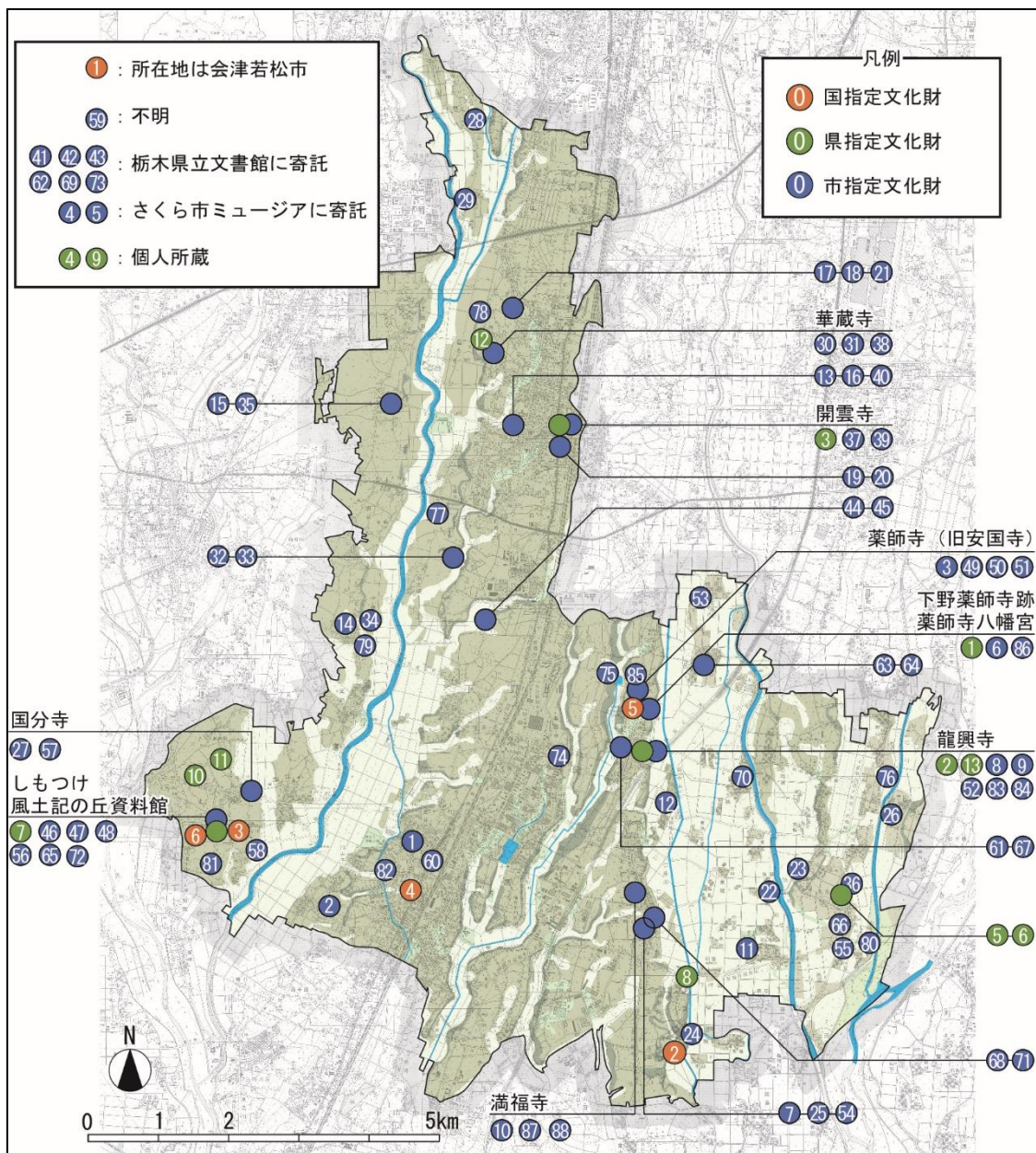
#### (1) 指定文化財

現在、本市に所在する国・県・市の指定文化財は107件にのぼる。栃木県内で一番面積の小さい市であるにもかかわらず、埋蔵文化財包蔵地の面積比率が高く、約520か所を数えることが大きな特徴である。これらの遺跡や包蔵地では、昭和40年代以降、100か所以上にわたって発掘調査・試掘調査が行われてきた。そのため、遺跡や出土遺物等、埋蔵文化財関係の指定文化財が多く、国の指定文化財6件のうち4件が史跡である。また、自然災害・戦災による被害も少なかったことから、主に江戸時代の歴史資料や彫刻、絵画等の有形文化財も多く市の指定文化財等に指定されているが、建造物に関してはほとんど指定や登録がされておらず、保存・活用が図られていない。

民俗文化財や無形文化財に関する調査は、合併前に各町で町史編さんの際に行われたが、その後の調査が続かなかつたため、指定件数は増えていない。なお、江戸時代以来の名産品であり、下野市にも生産者が存在する結城紬は、ユネスコの無形文化遺産となっている。

下野市の文化財一覧 令和2年(2020)3月時点

分類		国指定	県指定	市指定	合計	
①有形文化財	建造物	0	1	3	4	
	美術工芸品	絵画	0	0	18	18
		彫刻	0	2	14	16
		工芸品	1	1	3	5
		書跡・典籍	0	2	2	4
		古文書	0	0	5	5
		考古資料	1	2	14	17
		歴史資料	0	0	17	17
②無形文化財		0	1	0	1	
③民俗文化財	有形民俗文化財	0	0	1	1	
	無形民俗文化財	0	0	3	3	
④記念物	史跡	4	3	5	12	
	名勝	0	0	0	0	
	天然記念物	0	1	3	4	
⑤文化的景観		0	0	0	0	
⑥伝統的建造物群保存地区		0	0	0	0	
合計		6	13	88	107	



指定文化財分布図 ※図中の番号は指定等文化財リストと対応する

## (2) 文化財の概要

### ①有形文化財

建造物は、近世の社寺が県・市指定になっている他、未指定ではあるが歴史的建造物として農村の古民家や蔵等がいくつか残っている。宿場町として栄えた旧日光街道沿いの小金井宿・石橋宿にも商家が残っていたが、現在はほとんど残っていない。

美術工芸品では、古墳や古代の遺跡が豊富なことから、史料的価値の高い出土品や近世以降の仏画・仏像類等が多く指定文化財になっている。未指定ではあるが学校に保管されていた古文書類も調査で確認している。

概要 ※表中の番号は指定等文化財リストと対応する	
1	<p><b>八幡宮本殿及び拝殿（県指定建造物）</b></p> <p>本市唯一の県指定の建造物であり、古来より薬師寺地区のシンボルとして崇敬されている神社である。八幡宮の現在の本殿は寛文2年（1662）、拝殿は翌年に、いずれも佐竹右京大夫（秋田藩三代藩主の義処）により再建されたものと考えられている。部分的な改修が行われているが、創建当初の状態を比較的良好に留めており、17世紀にまで遡り得る県内でも数少ない神社建築として貴重な建造物である。</p> 
2 3	<p><b>吉田八幡宮</b></p> <p>八幡宮の起源は文治4年（1188）に下野守小山朝政が鎌倉にある鶴岡八幡宮を勧請し、別当寺として宝徳院を建立したことに始まると伝えられる。その後、結城晴朝により元龜2年（1571）頃に社殿の改築が行われ、現在の社殿は明治9年（1876）に再建されたものである。</p> 
2	<p><b>八幡宮本殿（市指定建造物）</b></p> <p>当初は個人宅の氏神だったが、明治5年（1872）川中子村の村社として八幡宮となった。現存する本殿は一間社流造の銅板葺であるが、当初は檜葺であったと考えられている。この本殿は大正5年（1916）に富田宿（現栃木市大平町）から移されたものである。向拝水引虹梁上の龍の彫刻に、天保7年（1836）に竣工を祝って奉納された旨の墨書に、富田宿を本拠地とする彫物大工として知られた磯部氏の名が確認されること等から、彫刻等建設の経緯や年代が明らかで、近世神社建築として貴重な建造物である。</p> 
	<p><small>とだじょういち</small> <b>戸田 讓 一家住宅</b></p> <p>石橋の愛宕神社の北 450mほどに位置する明治時代の旅籠建築である。通りとの境界にレンガ造の門柱と塀を設け、前栽にみられる樹木等とともに、景観に特徴を与えている。</p> 
	<p><small>はやしやすお</small> <b>林 安雄家住宅</b></p> <p>本吉田の北端、旧結城街道（県道宇都宮結城線）を挟んで八幡宮の向かい側に位置し、村名主を統括していたという旧家である。主屋は明治初期の建築で、屋敷構えは主屋を中心に付属屋が点在する農家的な性格を有する民家である。</p> 

概要 ※表中の番号は指定等文化財リストと対応する	
<p>のぐちみつお <b>野口 充夫家住宅</b></p> <p>上坪山の北部に位置する農家である。主屋は木造平屋建で寄棟造平入である。町史等によると明治35年（1902）の建築で、屋根はかつて板葺であったが、棧瓦葺へ改変されたという。ほかにも屋敷地内には、明治期以降に建てられたと考えられる付属屋が現存する。</p>	
<p>やまぐちたてみ <b>山口 健美家住宅</b></p> <p>下古山の児山城跡の北西に位置し、先代まで生産を行っていた干瓢生産農家住宅である。平成26年度に実施された調査によると、屋敷地内には主屋のほか、土蔵や乾燥小屋、外壁を大谷石とした石蔵等が現存する。主屋は平面形式等から明治中期、2階建の石蔵は昭和45年（1970）頃に建てられたという。また敷地内には井戸や屋敷神を祀る社も現存する。以前は板倉も存在し、石蔵の前身建物は茅葺でアマヤと呼ばれていた。このように、付属屋等が一部更新されてはいるものの屋敷地全体の空間構成は維持され、伝統的な干瓢生産農家の様子を今に伝える貴重な建造物であるといえる。</p>	
<p><b>行政倉庫</b></p> <p>花の木に立地し、農業協同組合（以下、農協という）の米の保管倉庫として使われていたが、現在は市の文書保存倉庫として利用されている。東西9m南北21mほどで、西を正面にして建つ。石造2階建、切妻造平入棧瓦葺で、幅約80cm高さ約30cmに成形した大谷石を積む組積造だが、屋根を支える小屋組は木造とする。内部は界壁により2分割され、入口が2か所設けられている。</p>	
<p><b>吉田農協倉庫</b></p> <p>本吉田の八幡宮の南500mほどの県道宇都宮結城線の東側にあり、農協によって米の保存倉庫として使用されていた。南側の東西に並ぶ2棟はいずれも2階建切妻造平入棧瓦葺で、幅約90cm高さ約30cmに成形した大谷石を積んだ石造の建物であるが、小屋組は木造とする。西側の倉庫は平面規模が東西約28m南北約9m、前面に亜鉛鉄板葺の庇を設け、内部は3分割されてそれぞれにアーチ形の入口が設けられている。東側の倉庫は東西約18m南北約9mで、内部は2分割され、それぞれに入口が設けられている。</p> <p>北側の1棟は、2階建平入切妻造棧瓦葺で棟を南北方向にとって建つ。平面規模は南北約16m東西約10mで、近年一部修理を行った。詳細な建築年代は不明であるが、戦後に撮影された航空写真（昭和22・36年）から、西側及び北側の2棟は昭和22年（1947）以前、もう1棟は昭和30年前後に建てられたと考えられる。内部を含め、部分的な改築がみられるが全体として保存状態はよい。</p>	

概要 ※表中の番号は指定等文化財リストと対応する	
2	<p>栃木県 甲 塚古墳出土品（国指定考古資料）</p> <p>平成16年度（2004）の下野国分寺跡保存整備事業に伴う発掘調査で、大量の埴輪と土器類が出土した。人物、馬等の形象埴輪の他、機織りを表現した埴輪2体が非常に特徴的である。土師器・須恵器等の土器類は、計360点あまりが石室の入口付近でまとまって出土し、死者を弔う儀礼が行われた際に使用されたと考えられる。</p> 
8	<p>東根供養塔（県指定考古資料）</p> <p>紀年銘のある宝塔としては県内最古のものである。凝灰岩製で、高さは約177cmであり、銘文には元久元年（1204）に佐伯伴行が妻とともに父母の菩提を弔うために造立したことが記されている。造塔を監督した僧の名として揚候行真という工人の名が記され、渡来系氏族と推測される。</p> 
46	<p>渡来銭及び常滑壺（市指定考古資料）</p> <p>天平の丘公園整備工事中に発見されたもので、高さ41cmの常滑壺の中に埋納されたものである。出土した渡来銭は、中国の唐の開元通宝（初鑄621年）から明の宣徳通宝（初鑄1426年）までの59種類で、合計12,441枚に及ぶ。埋設された年代は、宣徳通宝が含まれることや常滑壺の生産年代から、15世紀前半から半ばの間と考えられている。</p> 
63	<p>鉄砲打通報の高札（市指定歴史資料）</p> <p>江戸時代、秋田藩佐竹氏の領地であった町田村において、無許可に鉄砲を撃つ行為や禁猟区での狩猟行為を禁ずるために掲げられていた高札である。内容は、無許可に鉄砲を撃つ者や「留場」といわれる領主が定めた禁猟区の中で鳥をとる者を捕まえるもしくは見つけた者は、訴え出ることを村人に知らせたものである。また、その場合には褒美を出すとして、鉄砲撃ちの密告を促すものである。</p> 

## ②無形文化財

市内に残る無形文化財としては、石橋江戸神輿が県指定になっているほか、ユネスコの無形文化遺産となっている結城紬の生産も行われている。

概要 ※表中の番号は指定等文化財リストと対応する	
9	<p>いしばしえどみこし おがわまさじ  <b>石橋江戸神輿（県指定無形文化財）（保持者：小川政次）</b>  <small>えどみこし かし けやき かたいき</small>            江戸神輿は、樫や 欅 といった固い木を切り出し、釘等の金具を使用せずに木組のみで組み立てる技術により製作され、下野市石橋地内で作られた江戸神輿のことを石橋江戸神輿と言う。</p> <p>技術保持者である小川政次氏は、昭和20年（1945）から神輿づくりの修行をはじめ、関東の神輿師として知られた千葉県市川市の<small>あさこしゅうけい</small>浅子 周 慶に師事し、昭和32年（1957）に二代目宝珠三朗守政を名乗り、製作を行っている。氏のつくる江戸神輿は、木組みの組立技能や定規を使わず数種類のカンナを使い分けて木を削りながら作る屋根づくりの技法により製作される。また普及型神輿の考案開発において卓越した力を発揮し、江戸神輿製作業界における栃木県内の第一人者として高く評価されている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">小川政次氏による神輿の製作</p>
	<p>ゆうきつむぎ  <b>結城 紬（ユネスコ無形文化遺産）</b></p> <p>甲冑古墳から機織形埴輪が出土したことから、下野市では古墳時代から布の生産が行われていたと考えられており、史料等からも江戸時代中期には広い範囲で養蚕が行われていたことが分かっている。結城紬は丈夫で人々の普段着として広く愛用され、明治時代に入ると、養蚕の発達とともに生産が増大した。生産地も結城近郊の地域へと広がり、茨城・栃木両県にまたがる鬼怒川流域、市内では南河内地区で盛んに紬生産が行われるようになり、干瓢と並び近世から近代にかけての下野市の経済を支える産物となった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">機織形埴輪</p>
107	<p><b>ふくべ細工</b></p> <p>夕顔の実（ふくべ）やひょうたんを加工した工芸品である。かつては炭入れとして使われていたが現在では、花入れ、魔除け面、盆、菓子皿、銘名皿などとして利用され、鬼怒川・日光・川治などの観光地へ出荷されている。</p> <div style="text-align: right;">  </div>


### ③民俗文化財

下野市域では様々な講が盛んで、昭和30年代頃まで各所で行われていた。町史編纂事業で実施された調査によると、旧南河内町では十九夜講と庚申講が最も盛んに行われ、戦前までは学問の神様である天神様を祀る子ども達のための天神講や、月待信仰の二十三夜講が盛んだった。現在は十九夜講が幾つかの地区で継続しているのみであるが、講に関係する石造物は十九夜塔、二十三夜塔、庚申塔等が市内に多く残存している。祭りや祈願等の共同行事では集落の人々が集まって行う会食も行われ、海の無い当地にも関わらず、カツオ（国分寺薬師堂のカツクレ）やサンマ（国分寺紫の暁祭り）を供える行事や、組内あるいは講中のなかの特定の家が宿になり、そこで調理したものを組内または講中の人々が御馳走になる（南河内谷地賀のナベカケズ）等のユニークな行事も存在する。

祭りは八坂神社（天王様）の夏祭りが現在も小金井、柴北、吉田、薬師寺、石橋等、市内各地で行われており、祭りの時に演奏されるお囃子は、市内のお囃子会によって傳承されている。民俗芸能では、栃木県下に最も多く分布する太々神楽が、橋本神社、下古山星宮神社、石橋の愛宕神社、仁良川の愛宕神社、薬師寺八幡宮で元旦や祭礼で奉納されている。これらのうち、下古山星宮神社と橋本神社の太々神楽は市の無形民俗文化財に指定されている。

また、昭和30年頃までは様々な民間信仰や風習が存在し、特に生活を支えた干瓢生産と結城紬に関連する伝説・風習は数が多かった。現在はその多くが失われているが、星宮信仰は現代まで残る信仰の1つである。当地域には星宮神社が多く祀られているが、この神社の分布は限定的な地域となっており、非常に特徴的である。その他にも栃木県の代表的な郷土料理の一つであるしもつかれを農業神を祀る稲荷神社の祭りの日である2月の初午の日に神社に供え、豊作を祈願する風習が残る地域もある。

有形のものでは、3町が合併する平成18年（2006）以前から収集・保管されている干瓢生産道具等の農業に関する道具などの民俗資料がある。

概要 ※表中の番号は指定等文化財リストと対応する	
78	<p><small>しもこやまほしのみやじんじやだいだいかぐら</small>  <b>下古山 星宮神社太々神楽（市指定無形民俗）</b></p> <p>星宮神社拝殿内の正面に「正一位星宮大明神」の額が掲げられているが、世話人がこの額を京都から携えて帰ってきた享保14年（1729）4月10日を例祭と定め、太々神楽が奉納されるようになったと伝えられている。演目は、奉幣<small>ほうへい</small>の舞を含め13座からなる。</p> 

概要 ※表中の番号は指定等文化財リストと対応する	
79	<p>はしもとじんじやだいだい か ぐら 橋本神社太々神楽（市指定無形民俗）</p> <p>橋本地域の太々神楽は、文化2年（1805）に奉納された記録があり、江戸時代後期にはすでに行われていたことがわかる。当時は、周辺の村々の神官により各地で上演されていたようであるが、大正2年（1913）に橋本神社氏子一同により面・衣裳一式が奉納され、鷲宮神社で奉納されていた太々神楽が橋本神社太々神楽となった。</p> 
101	<p>しもつかれ</p> <p>栃木県の代表的な郷土料理の一つである。2月の初午<small>はつうま</small>の日に、塩びきの鮭の頭を節分に使った大豆の残りと一緒に煮て柔らかくし、冬に保存しておいた大根と人参を竹製の目の粗い鬼おろしですりおろし、油揚げを加え、最後に酒粕<small>さけかす</small>を入れて煮込んだ料理である。</p> <p>初午は、農業の神である稲荷神社<small>いなわら</small>の祭りの日であり、豊作を願ってワラヅトと呼ばれる藁<small>わら</small>を束ねたものの中にももつかれと赤飯を入れて神社に供える地域もある。各家に受け継がれてきた作り方があり、「橋を渡らずに3軒の家で作られたしもつかれを食べると中気<small>ちゅうき</small>（脳卒中）にならない」、「7軒の家のしもつかれを食べると中気にならない」等の言い伝えがある。</p> 
	<p>農業用具</p> <p>昔の生活道具や稲作・畑作、養蚕・機織などに関係する道具等が収集されており、特に町の特産品である干瓢<small>かんべつ</small>の製品化において重要な位置を占める干瓢剥き機が多く残されている。</p> <p>生産が始められた江戸時代には、包丁や小刀を使用していたが、時代とともに改良が行われ、夕顔の実を輪切りにして内側から剥いていく手カンナや、より効率的に実を剥くことのできる手廻し機、丸のまま実を剥くことができる丸むき手廻し機が考案された。</p> <p>本市における干瓢生産の定着と発達には、夕顔の実に適した地質や気象条件、栽培技術の向上等が挙げられるが、夕顔の実を剥くための道具の発明と改良によって加工能率が向上したことも要因の一つであり、干瓢生産道具は本市の特徴的な民俗文化財の一つといえる。なお、現在、干瓢剥き機はモーターを使用した動力式が使用されている。</p>   <p>干瓢剥き機（手カンナ）      干瓢剥き機（輪切用手廻し機）</p>   <p>干瓢剥き機（丸むき手廻し機）      唐箕</p>





## ④記念物

下野市の文化財は、古墳から古代にかけての遺跡が豊富なことが特徴であり、指定になっている史跡も古墳や古代の寺院跡等が多い。寺院跡に関連して、市内には古社寺も多く、未指定ではあるが御神木等も調査で確認している。また、中世の城跡や街道に関連するものも多く指定されている。天然記念物は、社寺に付随する古木・名木が指定されている。

概要 ※表中の番号は指定等文化財リストと対応する	
10	<p><b>愛宕塚古墳（県指定史跡）</b>  <small>あたごづか</small>  <small>ちくせい</small>            前方部を西に向けた2段築成の前方後円墳で、墳丘の全長は約78m、高さは前方部・後円部ともに約5m、周溝を含めた推定規模は100mを超える。前方部のくびれ部寄りに川原石と凝灰岩を使用した横穴式石室が造られている。この地域特有の下野型古墳の典型的なものであり、埴輪が無いことや出土した土器等から、6世紀末から7世紀初頭に造られたと考えられる。現在墳丘くびれ部付近に愛宕神社が祀られている。</p> 
11	<p><b>丸塚古墳（県指定史跡）</b>            2段築成の円墳で、墳丘第一段目に幅約11mの平坦面をもつ。古墳の規模は、墳丘第1段目は直径65m、第2段目は直径42m、第1段目からの高さが約6.5m、周溝を含めた直径は92mである。横穴式石室は南に開口し、凝灰岩の切石を使い精巧に造られている。下野型古墳の特徴を有している。</p> 
81	<p><b>オトカ塚古墳（市指定史跡）</b>            天平の丘公園内に所在する全長約45m、周溝も含めると約60mの帆立貝形前方後円墳である。前方部を南に向けており、前方部前端に横穴式石室がつくられている。石室は半地下式の無袖形であるが、川原石積みは、天井石、奥壁、側壁の部材の大半が抜き取られていた。出土した土器の特徴から6世紀後半に造られたと考えられている。</p> 
5	<p><b>下野薬師寺跡（国指定史跡）</b>  <small>しもつけのあそんこまろ</small>            下毛野朝臣古麻呂の一族が7世紀末に建立したと考えられている。8世紀後半には東国における僧の資格を得るための戒壇が当寺院に置かれ、隆盛を極めた。平安期末以降は衰退するが、鎌倉時代に慈猛により真言密教の寺として中興を果たした。南北朝時代には安国寺（現在の薬師寺）と改め、その法灯を今に伝えている。現在は、史跡地の一部を史跡公園として整備し、公開している。</p> 

概要※表中の番号は指定等文化財リストと対応する	
6	<p><b>下野国分寺跡（国指定史跡）</b></p> <p>天平 13 年（741）聖武天皇の国分寺建立の詔によって全国 60 数か所に建立された国分寺のひとつである。伽藍（建物）配置は、総国分寺である奈良の東大寺と同じ形式で、金堂等の主要な建物が南北一直線上に配置されている。塔は回廊の東に配置され、基壇の大きさから七重塔であったと考えられている。発掘調査等により伽藍地と寺院地の範囲や変遷がほぼ明らかになっている。</p> 
3	<p><b>下野国分尼寺跡（国指定史跡）</b></p> <p>下野国分寺と同じく、国分寺建立の詔<sup>みことのり</sup>によって全国に建立された寺院のひとつである。国分寺の東約 600m に位置し、伽藍（建物）配置は国分寺と同様であるが、塔は建立されていない。発掘調査によって、金堂や講堂といった主要な建物の規模や寺院地の範囲・変遷がほぼ明らかになっている。昭和 45 年（1970）に国分尼寺跡として全国で初めて整備事業が実施され、史跡公園として公開されている。</p> 
83	<p><b>道鏡塚（古墳）（市指定史跡）</b></p> <p>龍興寺の境内に所在する道鏡の墓と伝えられる塚であり、町史編さん事業の一環で発掘調査が実施され、円墳と推定された。円筒埴輪や翳形埴輪<sup>えんとうはにわ さしぼがたはにわ</sup>が出土している。復元された墳丘の規模は、直径が 38m、周溝の外縁直径が 41.8m となる。</p> 
82	<p><b>北台遺跡（市指定史跡・推定東山道跡）</b></p> <p>東山道は、奈良・平安時代に都から陸奥国をつなぐ幹線道路として整備された官道で、県内の遺跡 10 か所以上から東山道跡と考えられる遺構が確認されている。北台遺跡は平成 6 年（1994）度に発掘調査が実施され、東山道の側溝跡と考えられる遺構が確認された。当時の道路の幅は約 10.5m で、溝を掘り直していることから、数回改修を行っていることが判明した。現在は、東山道を復元した久保公園として整備されている。</p>  <p style="text-align: center;">久保公園</p>
12	<p><b>児山城跡（県指定史跡）</b></p> <p>多功城・上三川城とともに宇都宮城の南方を守るために築かれたとされる。鎌倉時代末期に、宇都宮頼綱の四男多功宗朝の子である朝定が築城したと伝わる。城は姿川東岸の台地上に築かれ、本丸を画する方形の堀と土塁が良好な状態で遺存し、周辺の堀や土塁も部分的に残存している。城の規模は不明であるが、本丸部分が県の史跡に指定されている。</p> 

概要※表中の番号は指定等文化財リストと対応する	
4	<p><small>こがね いちりづか</small> <b>小金井一里塚（国指定史跡）</b></p> <p>江戸時代の五街道のひとつである日光街道沿いに設けられた一里塚で、江戸日本橋から22里（約88km）の地点にあたる。2つの塚が現存し、発掘調査から塚の大きさが一辺12mの方形であることが判明した。また、街道の路面は3時期見つかっており、街道の幅は7.3m～10.4mと時期によって異なることも確認されている。現在は史跡ポケット広場として整備され公開されている。</p> 
13	<p><small>りゅうこうじ</small> <b>龍興寺のシラカシ（県指定天然記念物）</b></p> <p>龍興寺の境内にある道鏡塚の南東に立地する。樹高約21m、目通り周囲約4mで、樹齢は推定500年である。シラカシの内陸での北限は福島県とされていることから、北関東でこれほどの巨木は珍しい。なお、このシラカシはとちぎ名木100選にも選定されている。</p> 

### ⑤文化的景観

選定された文化財ではないが、下野市の特産品である干瓢の生産に係る農村風景は文化的景観と捉えることができる。初夏の夕暮れに真っ白な夕顔の花が咲き乱れる夕顔畑、夕顔栽培に欠かせないたい肥を共有する平地林、干瓢生産の場である農家の建造物等が一体となって文化的景観を形成している。

概要	
4	<p><small>かんびょう</small> <b>干瓢</b></p> <p>ふくべと呼ばれる夕顔の実をひも状に剥いて干した干瓢は、本市を代表する特産品である。下野壬生藩の初代藩主である鳥居忠英が、壬生領内の特産品とするために、前領地であった近江国水口から夕顔の種子を取り寄せ、栽培に成功したことから、壬生領内で干瓢が特産品として生産されるようになったとされている。合併以後、干瓢の生産量は全国一を誇っており、外国産の輸入品が多く流通している現在においても国産の約5割が本市で生産されている。</p> 
13	<p><b>夕顔畑と平地林</b></p> <p>平地林は薪炭の供給元であり、堆肥の原料となる落ち葉を供給するため、干瓢生産農家や夕顔畑と一体となって分布し、特に干瓢生産農家の多い台地上には多く見られる。かつて古墳や中世城館跡が平地林となったもの、または神社の鎮守の杜など、歴史的な背景をもつ平地林も多い。</p> 

## 2. 文化財の現状把握

### (1) 既存の文化財調査の概要

これまで行ってきた文化財に係る調査は以下のとおりである。

調査事業	調査概要
合併前の 町史編纂事業 における調査	<ul style="list-style-type: none"> <li> <p>・『南河内町史』</p> <p>昭和 62 年度から平成 10 年度までの約 12 年間、町の一大文化事業として取り組まれ、史料編全 5 巻、民俗編、通史編 3 巻が刊行された。史料編には地方自治体史のなかでは類例の少ない「絵図」編が含まれている。そのほかの史料編は、後述の国分寺町史同様、近世の史料、特に日光道中関宿通に関する資料や、古代東国の仏教文化の中心的存在であった下野薬師寺とその時代に関する資料が豊富に掲載されている。また、民俗編として刊行された本編以外に収録されなかった詳細な記録が膨大に残されているが、現在では既に失われてしまった資料や伝承できる関係者もいなくなっていること等から、貴重な記録となっている。</p> <p>『南河内町の野仏』、伝説を集めた『南河内の伝説』等の関連書籍も刊行された。</p> </li> <li> <p>・『石橋町史』</p> <p>昭和 54 年（1979）に町史編さん委員会が組織され、昭和 60 年（1985）に史料編（上）、昭和 63 年（1988）に史料編（下）、平成 3 年（1991）に通史編が発刊された。史料編（上）では、栃木県の後期古墳を検討する際に必ず必要とされる横塚古墳、下石橋愛宕塚古墳（この時すでに消失している）に関する資料が採録されている。また、他 2 町同様、江戸期に入り宿場町として石橋宿が形成されていく様子に関する資料を掲載している。また、新政府の知県事役所が開雲寺に置かれた際の関係史料や明治初期からの行財政関連の資料も充実している。</p> <p>昭和 50 年（1975）には『石橋町の民俗』が刊行されている。ここには現在県無形文化財である神輿造りや馬市、干瓢の流通に関する資料が掲載されている。</p> </li> <li> <p>・『国分寺町史』</p> <p>平成 7 年（1995）7 月に国分寺町史編さん委員会が発足し、平成 15 年度まで事業が行われた。『国分寺町の歴史（通史編）』のほか、概説書として『図説国分寺の歴史』、史料叢書『日光社参関係史料』2 冊が刊行された。この発刊にあわせて、町内各所に点在する五輪塔、石仏、板碑等の現地調査が行われて『板碑編』、『石に刻まれた歴史（野仏編）』が刊行された。さらに民具類やそれに伴う古い写真、町並み等について調査が行われ『民俗編』が刊行された。『日光社参関係史料』は、明和・安永期から文政期・天保期にかけての史料が多く、社参に関連した取り決め事、事前調査段階からの記録等が詳細に記されている。これらはいわゆる社参に関する記録とそれらを中心に個人所蔵の史料をまとめたものである。</p> </li> </ul>
埋蔵文化財 調査	<ul style="list-style-type: none"> <li> <p>・埋蔵文化財調査</p> <p>埋蔵文化財の包蔵地対応の業務で、年平均約 50 件の立ち合い・試掘調査、約 3 件の発掘調査を行っている。</p> </li> <li> <p>・下野市遺跡分布図の作成：平成 20 年（2008）</p> <p>石橋町では町史編さん事業の一環で、南河内町は平成元年度、国分寺町は平成 10～12 年度に埋蔵文化財詳細分布調査を行っている。</p> </li> </ul>

調査事業	調査概要
歴史文化遺産 総合把握調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財悉皆調査 下野市文化財保護審議会と下野薬師寺ボランティアの会の協力もと、未指定の文化財の保存と活用のため、平成 21～23 年度の 3 か年で文化財悉皆調査を実施した。調査対象は、主に神社仏閣等に所在する文化財や学校保管の文化財で、市内の神社仏閣等が約 120 か所、学校が中学校 4 校、小学校 12 校の合計 16 校である。調査の結果、指定・未指定合わせて確認できた文化財は約 400 点となった。再調査が必要な箇所もあるため、総点数はさらに増加することが見込まれる。</li> <li>・民俗文化財調査 平成 21～23 年度に町史編さん事業として過去に調査されたままであった民俗文化財に関する調査と建造物について再調査を行い、データの滅失等が起きないように、町史編さん事業で残された記録を有効活用できるように一部データ化を進めている。また、調査者が記録したカード型のデータを元に分類を行い、公開する方法を検討している。なお、干瓢の生産道具と生産技術は壬生町との共同事業として栃木県による「わがまち協働事業」の補助を受けて、資料の収集や保管、生産技術の聞き取り調査等を進めていたことから、資料の再収集に向けた調査を行った。この一連の作業により新たに資料が収集されたため、現在、壬生町・上三川町と連携し、資料の再整理と登録に向けた作業を進めている。</li> <li>・文化財建造物の調査 歴史的風致維持向上計画の策定に向けて、平成 30 年度に市内に残る歴史的な建造物の調査を実施した。調査の結果、14 件の歴史的風致形成建造物候補を選定することができた。また、同年度より登録有形文化財候補建造物の調査も実施した。3 件の候補物件を選定し、そのうちの 1 件について令和元年度に国へ登録の意見具申を行った。</li> </ul>
文化財 総合調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栃木県中世城館分布調査：昭和 58 年（1983） 薬師寺城、坪山城、児山城、大光寺城、館の内、箕輪城、古館</li> <li>・栃木県民俗資料調査</li> <li>・栃木県建造物調査</li> <li>・栃木県民家緊急調査：昭和 57 年（1982）</li> <li>・栃木県近代遺産（建造物等）総合調査：平成 15 年（2003）</li> <li>・近代和風建築総合調査：平成 27～29 年度（2015～2017）</li> <li>・栃木県民俗芸能緊急調査</li> <li>・栃木県祭り・行事調査</li> <li>・栃木県歴史の道調査：～平成 26 年度（～2014）</li> <li>・栃木県史料所在調査：平成 7 年度（1995） 栃木県立文書館により実施し、『国分寺町史料所在目録』を作成</li> </ul>

## (2) 文化財把握の方針

未指定文化財を含めた文化財の現状について、文化財の種別・地区ごとに現在までの調査状況をまとめた。調査の進んでいない分野や地区を明らかにし、今後の調査計画を立てる際の参考とする。これまでの調査で把握した未指定文化財はリスト化し、現況を取りまとめる。

文化財の調査状況一覧表

○：調査済み（追加調査する可能性がある）、△：調査途中、×：未調査

区分・種別		調査状況				
		南河内町地区	石橋町地区	国分寺町地区		
①有形文化財	建造物	○：文化財建造物の調査（H30～）				
		○：『南河内町史』編纂（H7） ・八幡宮（薬師寺） ・天満宮（上吉田） ・愛宕神社（仁良川） ・八幡宮（本吉田） ・八幡神社（别当河原） ・星宮神社（中川島） ・星宮神社（上川島） ・磯部神社（磯部） ・日光三神社（上坪山） ・春日神社（下文狭） ・八龍神社（田中） ・愛宕神社（薬師寺） ・鷲宮神社（東根） ・六角堂 ・龍興寺 ・満福寺 ・民家（11軒）	△	・古島正一家 ・金井神社 ・川中子八幡宮		
		絵画	×	×	×	
		彫刻	○：『南河内町史』（H1） ○：『南河内町の野仏』	×	×	
		工芸品	×	×	×	
		書跡・典籍	×	×	×	
		美術工芸品	古文書	○：『栃木県史料所在目録』第7集 河内郡2 上三川町・南河内町（S53）	○：『栃木県史料所在目録』第22集 下都賀郡3 石橋町（H5） 『石橋町史料所在目録』第1集（S57） 第2集（S58） 第3集（S59）	○：『国分寺町史史料所在目録』第1集（H7） 第2集（H9） 『栃木県史料所在目録』第28集 下都賀郡9 野木町・国分寺町・栃木市（上）（H11） ○：『日光社参関係史料』（H13）
			考古資料	○		
			歴史資料	○：古写真CD作成（H17） 町史編纂時収集写真の整理、東京オリンピック関係		
		○：『南河内町史』 ・絵図、古写真		×	○：『国分寺町史』（～H12） ・絵図、古写真	

区分・種別		分類	調査状況		
			南河内町地区	石橋町地区	国分寺町地区
②無形文化財			×	×	×
③民俗文化財	有形民俗文化財	祭道具	○：民俗文化財調査（H30～） ・橋本神社太々神楽 ・下古山星宮神社太々神楽		
			○：『南河内町史』 ・薬師寺八幡宮太々神楽	○：『石橋町の民俗』 (S50)	○：『国分寺町史』 民俗編
		墓石 碑塔類	○：『南河内町の野仏』 (S61)	○：『石橋町史』 ○：『石橋町の野仏』 (H2)	○：『国分寺町史』 編纂 ○：『国分寺町の野 仏』(H12) ○：『国分寺町史板 碑編』(H13)
	民具	○：干瓢生産道具			
		○：『南河内町史』 ・干瓢生産道具 ・結城紬	○：『石橋町の民俗』 (S50)	○：『国分寺町史』 編纂 ・干瓢生産道具 ・日常生活の道具	
	無形民俗文化財	全般	○：民俗文化財調査（H30～） ○：『下野市の伝説』（H25） ・神楽・囃子再調査		
		伝統 芸能	○：『南河内町史』 ・仁良川愛宕神社太々神楽 ・薬師寺八幡宮太々神楽 ・吉田八幡宮太々神楽 ・お囃子（仁良川、薬師 寺、本吉田）	○：『石橋町の民俗』 (S50)	○：『国分寺町史』 民俗編
		祭礼 風習	○：『南河内町史』	○：『石橋町の民俗』 (S50)	○：『国分寺町史』 民俗編
		民話	○：『南河内町史』 ○：『南河内の伝説』(H14)	○：『石橋町の民俗』 (S50)	○：『国分寺町史』 民俗編
	④記念物	埋蔵文化財	遺跡	○：別表（埋蔵文化財調査リスト）参照	
史跡		由緒地	○：『南河内町史』 ・旧村の絵図	○：『石橋町史』 ・石橋宿	○：『国分寺町史』 ・小金井宿
名勝			×	×	×
天然記念物		山、河川	○：『南河内町史』 ・河川	×	○：『国分寺町史』 ・河川
		希少 動植物	○：『南河内町史』	○：『石橋町史』	○：『国分寺町史』
	古木・ 名木等	×	×	○：『国分寺町史』	

区分・種別	調査状況		
	南河内町地区	石橋町地区	国分寺町地区
⑤文化的景観	○：『下野市歴史的風致維持向上計画』 ・夕顔畑		
	○：『南河内町史』 ・用水	×	○：『国分寺町史』 ・用水
⑥伝統的建造物群 保存地区	×	×	×
その他	○：成城大学民俗学研究会 (S63～H1) ・谷地賀の小字	×	×

#### 埋蔵文化財調査リスト

名称	所在地	時代	調査時期
三仏遺跡	薬師寺	縄文・古墳～中世	昭和61・62年度
向山遺跡	薬師寺	古墳～中世	昭和62・63年度
館野北遺跡	薬師寺	古墳～中世	昭和62・63年度
館野前遺跡	薬師寺	古墳～中世	平成元・2年度
向台遺跡	薬師寺	縄文・古墳～中世	昭和62・63年度
篠崎遺跡	薬師寺	古墳～中世	昭和62・63年度
下野薬師寺跡	薬師寺	奈良～中世	昭和41年～
稻荷台遺跡	薬師寺	縄文・古墳～中世	昭和49・50年度、平成19年度
大坂遺跡	薬師寺	縄文・古墳～中世	昭和62・63年度、平成20年度、令和元年度
雲雀台遺跡	薬師寺	古墳～中世	平成25・26年度
落内遺跡	薬師寺	古墳～中世	平成9・19・27・28年
薬師寺城跡	薬師寺	中世	昭和63年度
下野薬師寺跡 ※	薬師寺	奈良～中世	昭和41年～
三ノ谷遺跡 ※	薬師寺	縄文～平安	昭和57・58年度
北原古墳群	薬師寺	古墳	昭和62年度
上山王遺跡（東地区）	三王山	古墳～近世	平成26年
三王山上野原遺跡	三王山	古墳～平安	昭和63年、平成3・8・10・26年
朝日観音遺跡	三王山	弥生～古墳	昭和60年
朝日観音古墳群	三王山	古墳	昭和61年度
三王山南塚1・2号墳	三王山	古墳	平成元年
田中道光山遺跡	田中	古墳～平安	平成21年
絹板大六天遺跡	絹板	縄文	昭和51年度
結城街道北遺跡	仁良川	古墳～中世	平成19年
結城街道南遺跡	仁良川	弥生～平安	平成29年～
仁良川古墳群	仁良川	古墳	平成29年度～
結城道西遺跡	下坪山	縄文～中世	令和元年
栄遺跡	下坪山	縄文・古墳～平安	令和元年
西原南遺跡	下坪山	縄文・古墳～平安	平成6年



名称	所在地	時代	調査時期
谷地賀上野原遺跡	谷地賀	弥生～古墳	昭和63年
上野原古墳群	谷地賀	古墳	昭和63年度
下古館遺跡	医大前	中世	昭和53・56年度
下古館西遺跡	医大前	中世	昭和60・61年度
谷館野北遺跡	緑	旧石器・弥生～奈良	昭和57・61・62年度
谷館野西遺跡 ※	緑	古墳	平成元年度
谷館野東遺跡 ※	緑	弥生～平安	昭和57・62・63年、平成元・2年度
諏訪山北遺跡 ※	緑	奈良～中世	昭和62・63年、平成元・2年度
四ノ谷南遺跡 ※	緑	中世	昭和57年度
諏訪山遺跡	烏ヶ森	旧石器・弥生～中世	昭和57・60・62年、平成元・2年度
上芝遺跡	烏ヶ森	旧石器～近世	昭和60・61年度、平成元年度
烏森遺跡 ※	烏ヶ森	旧石器～中世	昭和55～57年度
四ノ谷北遺跡 ※	祇園・緑	中世	昭和58年度
三ノ谷東遺跡 ※	祇園	旧石器～奈良・中世	昭和58・59・63年度
二ノ谷遺跡 ※	祇園	古墳～平安	昭和59・60年度
前川原遺跡	上大領	縄文・古墳～中世	平成17年度
上大領兵行内遺跡	上大領、石橋	古墳～平安	平成21・23年度
松香遺跡 ※	中大領	古墳～平安	昭和58年度
中大領東原遺跡	中大領、下石橋	古墳～平安	平成24年度
下谷田遺跡	大光寺、石橋	古墳～平安	平成28年度
郭内遺跡 ※	下石橋	古墳～中世	昭和56・57年度
東林遺跡	下石橋	縄文・古墳～平安	平成22年度
下石橋愛宕塚古墳※	下石橋	古墳	昭和47年、平成11年度
児山城跡	下古山	中世	平成28年度～
横塚古墳	下古山	古墳	明治41年、昭和28年、平成25・26年
星宮神社古墳 ※	細谷	古墳	昭和57年
道金林遺跡	小金井	古墳～近世	平成26・27年
小金井一里塚	小金井	近世	平成9年度
柴工業団地内遺跡※	柴	縄文～平安	昭和51年度
北台遺跡	川中子	縄文・奈良・平安	平成3・4年度
箕輪城跡	箕輪	弥生～中世	平成2・3・28～30年度
下野国分寺跡 ※	国分寺	奈良・平安	昭和57～平成4年度、平成11～25・29年度
下野国分尼寺跡※	国分寺	奈良・平安	昭和39～43年度、平成5～10・29・30年度
小田坂古墳群	国分寺	古墳	平成27・28年度
甲塚古墳	国分寺	古墳	昭和62年、平成16年度
山王塚古墳	国分寺	古墳	昭和62～平成元年
丸塚古墳	国分寺	古墳	平成2～4・12・18年度
山海道遺跡	国分寺	奈良・平安時代	平成2・3年度
山王遺跡	国分寺	奈良・平安時代	平成4・7年度
愛宕塚遺跡	国分寺	奈良・平安時代	平成5年度
釈迦堂遺跡	国分寺	奈良・平安時代	平成6年度
山神遺跡	国分寺	奈良・平安時代	平成6年度

名称	所在地	時代	調査時期
東薬師堂遺跡	国分寺	奈良・平安時代	平成2・5・6・7・12年度
中井遺跡	国分寺	奈良・平安時代	平成4・8年度
新開遺跡	国分寺	奈良・平安時代	平成6・7年度
大口遺跡	紫	奈良・平安時代	平成2年度
西原遺跡	紫	奈良・平安時代	平成7年度
上野原遺跡	紫	古墳～平安時代	平成2年度
オトカ塚古墳	紫	古墳	平成17年度

※は県教育委員会調査を含む

### ①総合的把握調査（悉皆調査）の方針

上記にまとめた文化財の調査状況一覧より、有形文化財（建造物）、美術工芸品、無形文化財の悉皆調査が進んでいないことが判明した。有形文化財（建造物）については計画作成に伴い、市内でも歴史的建造物が残る地域と注目されている薬師寺地区を対象とした歴史的建造物の調査を小山工業高等専門学校の協力のもと実施し、調査報告の詳細を巻末に収録した。有形文化財（建造物）の調査は、今後も小山工業高等専門学校と連携し継続して実施する。今回調査を実施できなかった美術工芸品、無形文化財については、計画期間内で地域住民の協力を仰ぎ、地域総がかりで悉皆調査を実施し、リスト化などを進め実態把握に努める。

### ②詳細調査の方針

個別に詳細な調査が必要な文化財は以下の5つが挙げられる。これらの文化財については、計画期間内に文化財課を主導とし、県や大学等の有識者の意見を仰ぎ、保存・活用を図る。

調査対象	調査内容
落内遺跡	落内遺跡は、下野薬師寺を建立したとされる下毛野氏の居館跡と考えられる遺跡である。範囲確認調査の実施及び発掘調査報告書の作成を進め、下野薬師寺跡の史跡地として追加する。
中世城館跡	県の史跡として指定されており、本市で一番遺構の残りが良い児山城の発掘調査の実施及び発掘調査報告書の作成を進める。
三王山南塚1・2号墳	県内最古級の古墳である三王山南塚1・2号墳の発掘調査報告書を作成し、必要に応じて追加調査を実施する。
しもつけ古墳群	下毛野国の支配領域を表す「しもつけ古墳群」のうち、御鷲山古墳及び三王山39号墳について、しもつけ古墳群検討委員会の指導を仰ぎ発掘調査を実施し、発掘調査報告書を作成する。
日光街道に関連する文化財	日光街道沿いに所在する下石橋一里塚、石仏群等の調査を実施し、その成果を下野市バーチャルミュージアムで公開し、普及啓発を図る。